

修復完成記念特別公開 歴聖大儒像

無料入場券
2022 5/16 (MON) ▼ 5/27 (FRI)
9:00 - 17:00
筑波大学中央図書館一階貴重書展示室

寛永九年（一六三二）に狩野山雪によって描かれた儒者の肖像画「歴聖大儒像」。本学所蔵「歴聖大儒像」六幅は、湯島聖堂における孔子祭（釈奠）に使用されていたため破損等が激しい状態でしたが、三年の年月をかけて修復いたしました。この修復は、朝日新聞文化財団、出光文化福祉財団、住友財団の助成により実現したものです。現代の古美術品修復技術と、鮮やかに甦った儒者像をご覧ください。

主催 筑波大学附属図書館

公益財団法人朝日新聞文化財団

文化財保護助成（3カ年）

公益財団法人出光文化福祉財団

美術品修復事業助成（2カ年）

公益財団法人住友財団

文化財維持・修復事業助成（2カ年）

お問い合わせ

筑波大学附属図書館古典資料担当

Tel:029-853-2376

Email:voice@tulips.tsukuba.ac.jp



公式ウェブサイト
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022rekisei/>

Twitter @tulips_tenji



筑波大学附属図書館所蔵 狩野山雪筆「歴聖大儒像」6幅
掛幅装 紙本着色 「朱子（朱熹）」

儒者のまなざし



修復のようす。修復工房にて 2019年撮影

儒者のまなざし

修復完成記念 特別公開 歴聖大儒像

奈良時代に^{せきてん}釈奠（孔子を祀る儀礼）の式次第整備を行った吉備真備が釈奠画像を作らせたことから、日本の釈奠は、唐のように彫像を置いたり壁面を描いたりするのではなく、聖賢の画幅を掛ける形で行われるようになった。『延喜式』（大学寮）では、孔子像を廟堂奥に南面して置き、その東西に『論語』先進篇に見える十人の高弟の画像を配列する形であったようだ。その後釈奠は、廃絶の期間を経て、江戸時代初期、寛永9年（1632）、徳川義直が上野忍岡（現在の上野公園の地）に先聖殿（孔子廟）を建て、翌10年、林羅山によって復興された。そのさい寛永9年、羅山は、釈奠での使用や学生への教材も兼ねて、儒教の聖人・賢人二十一人の肖像画を制作することを企画し、狩野山雪に描くように依頼している。それが現存する『歴聖大儒像』^{れきせいだいじゅうそう}二十一幅である。このうち本学に蔵する宋儒六幅（他の十五幅は東京国立博物館蔵）は当時の釈奠に使用されたもので、『昌平志』所載の「殿上列位図」によると、

修復の過程をご覧になれます

筑波大学附属図書館

 公式 Facebook

<https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib>



孔子を中心に左右に四配（顔子・曾子・子思・孟子）の彫像が南向きに並び、その両側に六人の宋儒が従祀されていた。孔子と四配とは彫像が常置されていたので、釈奠にあたって本学所蔵の六幅の画像が掛けられたのである。これらの像は『礼記』王制にいう「^{しょうぼく}昭穆」の制という祖先の位牌を並べる序列の法則によって左右に振り分けて配列されている。つまり①周子③程叔子⑤邵子が「昭」、②程伯子④張子⑥朱子が「穆」である。現存の画像人物の向きが北中央に向くように描かれている点でも、じっさいの使用の様相が分かる貴重な資料である。ただじっさいの祭儀で使われることの多かった本館蔵幅は傷みも多かったが、このたび朝日新聞文化財団、出光文化福祉財団、住友財団の助成によって面目を一新し、今後の研究展観に資することになった。

人文社会系教授 谷口孝介